

七、公傷ノ場合ハ治療費全額ヲ支給ス

病氣缺勤ノ場合ハ二ヶ月迄ハ給料全額ヲ支給シ三ヶ月目ハ給料ノ半額ヲ支給シ本人平素ノ成績ヲ考慮シ此期間ヲ延長スルコトアルベシ

但シ此場合ハ醫師ノ診断書ヲ添へ缺勤届ヲ提出スルコトヲ要ス

八、臨時代人ノ手當ハ會社負擔トス

但シ事業主ノ承認ヲ得タルモノニ限ル

九、兵役關係者ニシテ檢閲點呼又ハ勤務演習ノ爲メ缺勤シタル時ハ給料全額ヲ支給ス

戰時又ハ事變ノ爲應召ノ場合ハ家族ニ對シ應分ノ補助ヲナス

一〇、本爭議ニ關シテハ犠牲者ヲ出サズ

但シ今后故意ニ館ノ秩序ヲ亂シ營業者ニ對シ不利益ヲ及ボス行爲アリタル時ハ即時解雇シ従業員ハ之レニ對シ異議ヲ申立テザ

ルハ勿論既定ノ解雇手當ハ支給セズ

一一、家族救済トシテ金四百五十圓也ヲ支給ス

本協定ニヨリ爭議團ハ即時解散シ七月十七日ヨリ就業スルモノトス

右覺書ハ之ヲ四通作製ノ上各々關係者ニ於テ保管ス

昭和七年七月十六日

會社側代表 植田一郎

従業員代表 桂芳郎

青木恒太郎

森脇甚一

調停官補 清水喜代助

葺合警察署長 中出忠七郎